

医学教育分野別評価

神戸大学医学部医学科

年 次 報 告 書

2024 年度

評価受審年度 2018 年度

2024 年 8 月

神戸大学医学部医学科

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
今後、使命と学修成果を見直す際には、教員だけでなく、職員や学生代表も議論に参加し、意見を反映させるべきである。	
改善状況	
医学部教員に加えて、学生、他部局教員、外部委員、学務課職員が参加した委員会を開催した。使命と学修成果のあり方に係る検討を行なった。	
今後の計画	
引き続き、カリキュラム策定運用委員会において、学生を交えて使命と学修成果の見直しについて検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-1,2 令和5年度 教育研究 IR 委員会議事要旨（6月12日，11月10日）	
1.4-3,4 令和5年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（6月26日，11月27日）	
1.4-5 令和5年度 医学部医学科教育改革諮問委員会議事要旨（7月31日）	

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
使命と学修成果の策定には、より広い範囲の教育の関係者が参加することが望まれる。	
改善状況	
医療制度の利用者をメンバーに加えた令和 5 年度の医学部医学科教育改革諮問委員会及びカリキュラム策定運用委員会において、新医学教育モデルコアカリキュラムで提示された中の「GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢」「IT：情報・科学技術を活かす能力」への対応について協議を行い、今後の使命と学修成果のあり方に係る検討を行なった。	
今後の計画	
引き続き、年 2 回開催するカリキュラム策定運用委員会において、医学部医学科教育改革諮問委員会からの提言に基づき、使命と学修成果の見直しについて検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-3 令和 5 年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（6 月 26 日）	
1.4-5 令和 5 年度 医学部医学科教育改革諮問委員会議事要旨（7 月 31 日）	

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
アクティブラーニングをより充実すべきである。	
改善状況	
令和 5 年度新たに開講した 6 年次「臨床総括講義」において、臨床倫理のアクティブラーニングを行った。	
今後の計画	
6 年次に新たに開講した「臨床総括講義」をさらに充実させる。	
改善状況を示す根拠資料	
2.1-1 令和 5 年度シラバス（臨床総括講義）	
2.1-2, 3 第 8, 9 回 倫理教育ワーキング議事メモ（12 月 26 日、3 月 29 日）	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
行動科学においては、体系的な教育プログラムを構築し、実践すべきである。	
改善状況	
令和 5 年度において、臨床実習の中で行動科学の実践的な内容を展開することができなかった。	
今後の計画	
授業内容のさらなる充実をはかるため、引き続き臨床実習の中で、行動科学による実践を計画する。	
改善状況を示す根拠資料	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
時代に対応して体系的に行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを調整していくことが望まれる。	
改善状況	
令和5年度新たに開講した6年次「臨床総括講義」において、社会医学/医療倫理学の要素を整理し取り組んだ。	
今後の計画	
授業アンケート等をもとに「臨床総括講義」の更なる改善をはかる。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-2 令和5年度 教育研究 IR 委員会議事要旨（11月10日）	
2.1-1 令和5年度シラバス（臨床総括講義）	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>重要な診療科における十分な実習期間を確保すべきである。</p> <p>学生が経験すべき症例と臨床技能を明確にし、すべての学生が修得できるような臨床実習カリキュラムを定め実践すべきである。</p>	
改善状況	
臨床実習の手技チェックリストに係るアンケート結果をもとに、臨床実習2・3FD 講習会において指導医に対し、手技の充実に取り組むための指導を行った。	
今後の計画	
令和5年度に雇用された医学教育推進センターに所属する時短教員を活用し、医行為向上のためのプログラムをすすめる。	
改善状況を示す根拠資料	
2.5-1 6年次「臨床実習2」指導医講習会（7月10日）	
2.5-2 6年次「臨床実習3」指導医講習会（9月12日）	

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>基礎医学および臨床医学教育における水平的統合を、より推進することが望まれる。 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的（連続的）統合を推進することが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>水平的統合を視野に、細胞生物学と生化学の内容重複を解消し改善を行った。</p>	
今後の計画	
<p>引き続き、他の分野における水平的統合に係る検討を進める。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>2.6-1 令和5年度シラバス（細胞生物学1） 2.6-2 令和5年度シラバス（細胞生物学2） 2.6-3 令和5年度シラバス（生化学） 2.6-4 令和3年度 教育研究IR委員会資料（抜粋）（令和3年11月2日）</p>	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。</p> <p>学生の学修を促進するために、試験の適正な回数と内容を検証すべきである。</p> <p>評価が担当教員以外の外部の専門家によって吟味される仕組みを構築すべきである。</p>	
改善状況	
9 月に実施している定期テストについて、学生からの授業アンケートに基づき、適切な時期へ変更した。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ロードマップ案について、実用化に向けて検討する。 ・半期ごとに開催される教育研究・IR 委員会の中で、試験を含めた評価方法について、多分野の委員により吟味していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-2 令和 5 年度 教育研究 IR 委員会議事要旨（11 月 10 日）	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。	
改善状況	
教員各自が授業振り返りを行い、授業コーディネータによる学修評価方法の再点検を行ったものの、教育研究 IR 委員会では大きな分析を行うまで至らなかった。	
今後の計画	
引き続き、教員各自が授業振り返りを行い、授業コーディネータが、学修評価の方法を再点検し、より妥当性や信頼性の優れた評価ができるよう改善していく。教育研究 IR 委員会にて、各科目の学修評価方法を集計し、分析していく。	
改善状況を示す根拠資料	
3.1 令和5年度前期 教員による授業振り返り（公衆衛生学）	

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>目標とする学修成果を学生が達成していることを組織的に評価する仕組みを作るべきである。</p> <p>目標とする学修成果を全学生が達成するために形成的評価を活用すべきである。</p>	
改善状況	
<p>学生によるセルフアセスメントは全科目において実施を継続している。一方で、教員による授業ふりかえりが不十分であった。</p>	
今後の計画	
<p>令和4年度にコア・カリキュラムが改定になったことを受け、目標とする学修成果を全学生が達成するために、ロードマップの改訂やさらなる評価の改善法に取り組む。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム単位ごとに評価結果に基づいたフィードバックを行い、学修成果の達成に向かって学修意欲を促進することが望まれる。 臨床実習において、mini-CEX、360 度評価、ポートフォリオなどを利用したパフォーマンス評価を充実し、臨床実習期間全体を通して適切なフィードバックを行う体制を構築することが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習 1（総合内科学）において、mini-CEX を用いた評価を行った。 ・電子ポートフォリオの構築、活用にむけ、専門企業と協議を重ねた。 	
今後の計画	
電子ポートフォリオの構築、活用方策について、専門企業と具体的な実用化に向けた協議をすすめる。	
改善状況を示す根拠資料	
3.2-1 mini-CEX（簡易版臨床能力評価に関する評価表）	
3.2-2 質の高い臨床教育・研究の確保事業（神戸大事業ポンチ絵）	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学修上の問題に対するカウンセリング制度とその体制を充実すべきである。 社会的、経済的、および個人的事情に対応した学生支援プログラムを充実すべきである。	
改善状況	
チューター制度に加え学年担任制度を導入し、問題のある学生対応を行った。	
今後の計画	
構築したチューター制度について、さらなる制度の充実にむけて検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
4.3-1 医学科教務学生委員会議事次第（令和5年4月12日）	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
全学生に対して、評価結果に基づいた経時的な学修上のカウンセリングを実施することが望まれる。	
改善状況	
4 年次共用試験、6 年次卒業試験の不合格者あて面談を行った。また、国家試験に向け卒業試験の得点率が低かった学生あて指導を行った。	
今後の計画	
構築したチューター制度について、評価結果に基づいた経時的な学修上のカウンセリングを実施するべく、さらなる制度の充実にむけ検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
4.3-2 卒試不合格者の面談通知	
4.3-3 CBT 不合格者への面談	

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教員に対する教育能力開発をより充実させ、全教員の教育への理解を推進すべきである。	
改善状況	
臨床実習 2・3 に係る FD のほか新任教員に対する医学部医学科の教育理念や本学医学部生への理解を深めることを内容とした FD を行った。	
今後の計画	
臨床実習 2・3 に係る FD を引き続き継続し、充実をはかる。教員の能力開発の FD を企画する。	
改善状況を示す根拠資料	
2.5-1 6 年次「臨床実習 2」指導医講習会（7 月 10 日） 2.5-2 6 年次「臨床実習 3」指導医講習会（9 月 12 日） 5.2 令和 5 年新任教員の医学教育 FD（e-ラーニング）について（通知）	

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生用の自習スペースは不足しており、自習スペースを整備すべきである。	
改善状況	
ラーニングコモンズに整備する機器等の仕様について最終確認を行い、経費について各関係予算より調達した。旧福利厚生棟の改修工事を実施したものの、工事に遅延が発生し、ラーニングコモンズの開設は、翌年度4月半ば以降となった。利用案内等の開設準備を行った。	
今後の計画	
ラーニングコモンズの運用を開始する。また、ラーニングコモンズは多目的利用ができる仕様となっているため、双方向授業や行事等、ラーニングコモンズの活用について検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
6.1 医学科教務学生委員会議事次第（令和6年3月6日）	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学内外の指導医に対する FD をさらに推進し、指導力の養成を図るべきである。	
改善状況	
臨床実習 2・3 に係る学内外 FD を推進し、グッドプラクティス共有にむけた FD を行った。	
今後の計画	
引き続き、臨床実習 2・3 に係る学内外 FD を推進し、グッドプラクティス共有にむけた FD の充実をはかる。	
改善状況を示す根拠資料	
2.5-1 6 年次「臨床実習 2」指導医講習会（7 月 10 日） 2.5-2 6 年次「臨床実習 3」指導医講習会（9 月 12 日） 6.2 臨床系教育 FD ポスター（ハワイ大学 PBL ワークショップ報告会・1 月 10 日）	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
「神戸大学 BEEF」の活用の促進、およびインターネット環境のさらなる改善が望まれる。 学生が正規の電子カルテに記載できることが望まれる。	
改善状況	
12 月より開始した臨床実習 2 において、学生の記入が可能となる正規電子カルテシステムを導入した。	
今後の計画	
電子カルテの記入できる環境を整備するため、専用スペース（端末室）の確保に努める。	
改善状況を示す根拠資料	
6.3 臨床実習 2 カルテ記載オリエンテーション	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生の学修成果をカリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩の視点から、データを収集し、現行のカリキュラムの課題を特定し対応すべきである。	
改善状況	
学生への授業アンケートにより、かねてよりその内容が課題となっていた「情報科学」について、教育研究・IR 委員会での審議をもとに情報科学 WG をたちあげ、カリキュラムの改善をはかった。	
今後の計画	
引き続き、学生の授業振り返り・実習アンケートと授業コーディネータ教員による授業振り返りの実施から、教育研究 IR 委員会での分析、カリキュラム策定運用委員会での改善実施という教育の PDCA サイクルを回していく。	
改善状況を示す根拠資料	
7.1-1, 2, 3 第 3, 4, 5 回 情報科学ワーキング議事要旨（5 月 15 日、8 月 1 日、1 月 19 日）	
7.1-4 令和 5 年度シラバス（情報科学）	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任の視点で定期的にプログラムを包括的に評価することが望まれる。	
改善状況	
引き続き大学院入学者アンケートを実施し、教育研究 IR 委員会で卒業した医学部の学修成果について本学医学科コンピテンスに基づき達成度を分析し、提供したプログラムでの学習成果と社会的責任の視点によるカリキュラム改善に係る検討を行った。	
今後の計画	
大学院入学者・教員入職者へのアンケートについて、令和 5 年度の回収率が不十分であったため、入学・入職手続き書類の配布に併せたアンケート依頼のほか回答率向上のための方策を検討し、実施する。	
改善状況を示す根拠資料	
1. 4-1, 2 令和 5 年度 教育研究 IR 委員会議事要旨（6 月 12 日，11 月 10 日）	
7. 1-5 令和 5 年度大学院入学者アンケート（神戸大学医学部医学科出身）	

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>学生からのフィードバックは、主に授業評価にとどまっており、卒業試験アンケートもカリキュラムアンケートになっていない、1年次から6年次に至るプログラム構成（目標、方略、評価を含む）について、その改善に資するような情報をフィードバックとして受けるべきである。</p> <p>教員からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。</p>	
改善状況	
<p>教育研究・IR委員会を活用して、1年次から6年次に至るプログラム構成（目標、方略、評価を含む）について、教員からのフィードバックを含め、その改善に資するような情報を受け、教員からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応した。</p>	
今後の計画	
<p>引き続き、教育研究・IR委員会を活用して、1年次から6年次に至るプログラム構成（目標、方略、評価を含む）について、教員からのフィードバックを含め、その改善に資するような情報を受け、教員からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応していく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-1,2 令和5年度 教育研究 IR 委員会議事要旨（6月12日，11月10日）	

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
フィードバックを受けてプログラムを開発する仕組みはあるが、フィードバックが十分ではなく、プログラム改善に至っていない。学生、教員、社会から、それぞれのニーズを把握し、分析、評価して、プログラム開発につなげることが望まれる。	
改善状況	
教育研究・IR委員会においてフィードバックを収集し、学生から広く意見を募ったうえで、カリキュラム策定運用委員会においてプログラム開発を行った。	
今後の計画	
令和4年度コア・カリキュラムを再度精査し、本学医学部の各プログラムを、より社会の要請に応える内容となるよう学内で検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-1,2 令和5年度 教育研究 IR 委員会議事要旨（6月12日，11月10日）	
1.4-3,4 令和5年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（6月26日，11月27日）	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生ならびに卒業生の実績に関する情報を系統的に収集・分析し、使命と期待される学修成果に沿った人材が育成されているかを検討し、プログラムの改善に利用すべきである。	
改善状況	
これまでの各種アンケート結果をふまえ、男女共同参画を内容とするキャリア教育において、リーダーシップの醸成をはかるプログラムを一部取り入れた。	
今後の計画	
これまでの各種アンケート結果や研修先病院から神戸大学医学部卒業生の積極性が十分でないと指摘されることがあり、引き続きコンピテンス「向上心」「リーダーシップ」の観点から、臨床実習のほかアクティブラーニングの授業を通じてリーダーシップの向上をはかる内容に改善する。	
改善状況を示す根拠資料	
7.3-1 医師のキャリアを考えるセミナープログラム（11月21日）	
7.3-2 医師のキャリアを考えるセミナーポストアンケート集計	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>学生と卒業生の背景と状況に関する実績を分析することが望まれる。</p> <p>学生の実績を分析し、その解析結果を学生選抜、カリキュラム立案や学生支援に関わる委員会にフィードバックすることが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>学士編入専門委員会において、学士編入学者の進路について集計し、進路の傾向について分析した。これに基づき、編入学制度の改善に係る検討を行った。</p>	
今後の計画	
<p>引き続き、教育研究・IR 委員会が収集、分析した学生/卒業生の背景と状況に関する実績の分析結果や PROG テスト結果を、カリキュラム策定運用委員会、教務学生委員会及び入学システム検討委員会にフィードバックしていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>7.3-3, 4, 5, 6 学士入試（第2年次編入学）専門委員会議事録（8月21日、9月11日、10月17日、1月29日）</p>	

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
他の関連する教育の関係者に、課程ならびにプログラムの評価結果を基に、フィードバックを求めることが望まれる。	
改善状況	
臨床実習への取り組み及び公的化された OSCE 試験への対応について、他大学の施設及び授業見学を行い、実施責任者と意見交換を行った。	
今後の計画	
引き続き、医学教育改革諮問委員会を開催して、カリキュラムについて他大学教育関係者や関連病院の教育担当者を含む外部委員の評価を受けてカリキュラム改善をはかっていく。このほか、医学教育推進センター教員を中心に他大学での取り組みについて積極的に情報収集をはかる。	
改善状況を示す根拠資料	
7.4 医学教育推進センタ一定例会議議事要旨（2月21日）	

8. 統括および管理運営	8.4 事務と運営
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育の改革を推進するために、教学に関わる事務を含めた組織の支援体制を強化すべきである。	
改善状況	
医学教育推進センターの運営にあたり、教員、時短教員、技術補佐医員、事務補佐員の雇用を行い、執務場所として地域医療活性化センター 3 階のスペースを確保した。定例会議を開催し、センター業務について審議し、活動を始めた。	
今後の計画	
センター内に新たに「医学英語・国際化教育部門」を開設し、とりわけ英語を用いた医学教育のあり方について検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
7.4 医学教育推進センター定例会議議事要旨（2 月 21 日）	

9. 継続的改良	
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育研究・IR 委員会、カリキュラム評価委員会、医学教育改革諮問委員会等の活動の充実を図り、継続的な改良を進めるべきである。	
改善状況	
教育研究・IR 委員会のほか医学教育改革諮問委員会の提言を参照しながら、カリキュラム策定運用委員会を開催し、カリキュラムの継続的な改良を進めた。	
今後の計画	
引き続き、教育研究・IR 委員会を活用し、また、医学教育改革諮問委員会の充実をはかりながら、カリキュラム策定運用委員会を中心にカリキュラムの継続的な改良を進めていく。	
改善状況を示す根拠資料	
1. 4-1, 2 令和 5 年度 教育研究 IR 委員会議事要旨（6 月 12 日，11 月 10 日） 1. 4-3, 4 令和 5 年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（6 月 26 日，11 月 27 日） 1. 4-5 令和 5 年度 医学部医学科教育改革諮問委員会議事要旨（7 月 31 日）	